医療維新

シリーズ 一介の外科医、憧れの人に会いに行く：中山祐次郎・対談企画 »

医療維新

現時点で最も正しい医療情報が分かる仕組み－渡辺範雄・コクランジャパン代表/京都大大学院准教授◆Vol.1

コクランで実臨床はどう変わるか

スペシャル企画　2029年10月16日 (火)配信 聞き手・まとめ：高橋直純（m3.com編集部）

　メディアでも活躍する13年目の外科医、中山祐次郎氏（福島県郡山市の総合南東北病院外科）が医療界内外の「憧れの人」に会いに行く対談企画「一介の外科医、憧れの人に会いに行く」。第18弾はコクランジャパンの代表理事で、京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻（MPHコース）健康要因学講座健康増進・行動学分野准教授の渡辺範雄氏。コクランの「システマティック・レビュー（系統的レビュー）」とは何か、医療情報をどう一般に伝えていくかについて議論していただきました（2019年8月22日に対談。全4回の連載）。

中山：本日は僕が現在、在学している京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻（MPHコース）の渡辺範雄先生にご登場いただきました。渡辺先生は健康要因学講座健康増進・行動学分野の准教授で、コクランジャパンの代表でもあります。僕は昨年、先生の「システマティック・レビュー（系統的レビュー）」という授業を取っていました。

　そこでは、「コクランレビュー」に実際に投稿するということをやりました。そのご縁で、今年のコクランジャパンの総会では特別講演もさせていただきました。まずは復習もかねて（笑）、改めてコクランとは何かについてお聞きしたいと思います。

渡辺：コクランはミッションを「利用しやすく高品質で適切なシステマティック・レビューをはじめとする総合的なエビデンスを提供し、健康に関する意思決定を情報に基づいて行えるよう後押しする」としており、本部はイギリスになります。EBMの理念の創始者の一人とも言えるアーチー・コクラン氏の名前から取られています。コクラン氏は医師で、RCT (無作為割付対照試験)を吟味した上でまとめることが、我々の職業として必要であるとおっしゃっていたんですね。

　RCTはエビデンスレベルが高いですが、同じようなトピックに関する研究を集めることでランダム誤差によるばらつきをなくした結果が出るという考えから、「系統的レビュー」と「メタ解析」をやりましょうということです。

　その理念に賛同した人達がイギリスでコクラン妊娠・出産グループを作り、「コクランライブラリー」として、系統的レビューを集める取り組みを始めました。その後、新生児や脳梗塞というふうに他の疾患へ広がり、1993年にコクラン共同計画が設立され、日本では2014年に支部が作られました（発足時については『世界の医療の常識を作るコクラン－森臨太郎・コクラン共同計画日本支部長に聞く◆Vol.1』を参照）。

渡辺氏（右）

中山：渡辺先生はどのような経緯でコクランに関わる様になったのですか。

渡辺：私はもともと精神科医でして、2000年ぐらいには精神科でもEBMという言葉が使われるようになってきて、コクランレビューを読むようになりました。2002年にはノルウェーで開かれた、第10回目のコロキアム（国際学会）に参加しました。

中山：そもそもですが、コクランはどういう団体なのですか。学会のようなものと考えれば良いのでしょうか。

渡辺：学会は会費を払って学会員になりますけど、コクランは「メンバーシップスキーム」で、会費はゼロです。入り口に当たるサポーターになるにはウェブで登録するだけです。コクランは英語ベースの活動ですけど、各国で一般の人にも広めるためにレビューのサマリーの翻訳を重視していて、サポーターは何本かを自国語に翻訳したらメンバーに上がれます。翻訳だけでなく、コクランの系統的レビューの著者になることでもメンバーになれます。

中山：入会するのは医師だけですか。

渡辺：いや、全然違います。コロキアムに行ってびっくりするのは医師や看護師と言った医療者はもちろん、統計学者や、policy maker、例えば日本でいうところのPMDAのようにレギュレーションに関わっている人がたくさんいることです。あと、普通の学会は男性が多いですが、コクランでは女性の方が多いと感じるくらいです。

中山：それは非常に珍しい。

渡辺：珍しいですよね。現在のコクランライブラリーの編集長は女性ですし、女性が活躍していますね。

中山：授業の復習のようですが、コクランの系統的レビュー（システマティック・レビュー）とはどのようなものでしょうか。

渡辺：まとめて解析すると言っても、自分の好みの結果ばかり集めてきたら、まずいわけです。コクランの系統的レビューでは、関連する研究は全て、自分の好みや国、年代、出版の有無は関係なく、全部集めてきます。コクランではこんな解説動画（What are systematic reviews?）を作っています。

中山：どのようにして運用されているのですか。具体的に言うと、活動資金はどのように賄っているのか気になります。

渡辺：コクランの理念として、製薬会社と完全に縁を切るというものがあります。そこで、国や大学、WHO（世界保健機関）などから研究費も獲得しますが、大きいところではコクランレビューの購読料金があります。昔はCD－ROMで6枚組を年4回とかで販売していましたが、現在はネット経由がメインです。

　ここには矛盾もあってコクランとしてはたくさんの人にレビュー結果を使ってもらいたくて活動をしています。お金を払わないと読めないのはおかしいということで、最近は公表後1年経ったものは無料で見られるようにしています。

中山：系統的レビューをやっているのはコクランだけではないですよね。

渡辺：もちろん、他でもやっています。例えば『JAMA』や『New England Journal of Medicine』のようなインパクトの高い雑誌でも、系統的レビューは掲載されています。では、コクランでやる意義ですが、コクランは洗練された方法論を提供して、そのためのソフトウェアも作って無料で配布しています。投稿時点だけでなくて、最初の登録の時点からレビュアーがいろいろアドバイスをしてくれます。なので、研究者が独り善がりでなくて、最初から最後までずっとアドバイスとサポートをもらいながらやる点から、恐らく質の高いものになるだろうということです。

　登録には中山先生も苦労したと思うので、後ほど体験をお聞かせいただきたいですが（笑）。

中山：確かにプロがアドバイスをしてくれるというイメージで僕もやっていました。

渡辺：プロが無料でアドバイスをしてくれて、参考になる論文を検索して送ってくれます。よく回っているなと思います（笑）。

中山：系統的レビューで何が分かるのでしょうか。

渡辺：まず、系統的レビューでは、例えばノーベル賞を取るのは絶対無理ですよね。ノーベル賞が評価するような新しいブレークスルーが生まれたり、特許につながるようなものではないです。系統的レビューは、今ある研究を集めて最大公約数的な正しいものを見つけようというものです。世の中には間違った医療情報があまりにも多く広まっています。新しいコクランレビューさえ見れば、現時点で最も正しい医療情報が分かると言えます。

中山：意外な結果が出ることもありますか。ガイドラインが変わったりするような発見とかは。

渡辺：もちろん、あります。最近、コクランが力を入れているのは、各国のガイドラインにコクランエビデンスが採用されたか。統計も取っています。自分たちで系統的レビューを作るだけでなく、政策に生かしたり、一般の人が治療方針の判断に使ってもらったりするような仕組み作りです。

編集部：最近で、コクランでの面白い発見にはどのようなものがありますか。

渡辺：例えば少し前ですが、末梢静脈点滴のためのカテーテルを、3－4日ごとにルーチンで入れ替えるように今までのガイドラインでは推奨していたのが、何らかの臨床的徴候が出た時に替えるのと比較して利点がないことがコクランレビューで示され、ガイドラインが変わったということがありました。　（『Clinically-indicated replacement versus routine replacement of peripheral venous catheters』）

中山：なるほど。

渡辺範雄

横浜市立大学医学部卒業。2003~2005年ロンドン大学精神医学研究所に留学。名古屋市立大学医学部精神・認知・行動医学分野専任講師、病棟医長を経て、2013年から国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター室長。現在は京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康要因学講座健康増進・行動学分野准教授。医学博士。精神保健指定医、日本精神神経学会専門医・指導医。

中山祐次郎

1980年生。聖光学院高等学校を卒業後、2浪を経て、鹿児島大学医学部卒。都立駒込病院で研修後、同院大腸外科医師(非常勤)として10年勤務。2017年2月から福島県の高野病院院長を務め、現在福島県郡山市の総合南東北病院外科医長として、手術の日々を送る。現在は病院に籍を置きつつ、京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻（MPH）の2年生。資格は消化器外科専門医、内視鏡外科技術認定医(大腸)、外科専門医など。モットーは「いつ死んでも後悔するように生きる」。著書は『幸せな死のために一刻も早くあなたにお伝えしたいこと－若き外科医が見つめた『いのち』の現場三百六十五日』『医者の本音』『がん外科医の本音』『泣くな研修医』。2017年に「発信する医師団」を立ち上げ、精力的に医療情報を発信している。連載はヤフーニュース個人、日経ビジネスオンライン、ハフポストなど。

シリーズ **一介の外科医、憧れの人に会いに行く：中山祐次郎・対談企画 »**